



International Lawn Tennis Club of JAPAN Newsletter

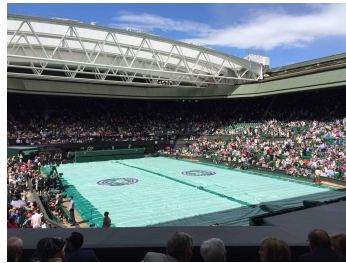
2017年 5月 No.6

日本国際ローンテニスクラブ 会員の皆様へ

会員の皆様には、会員更新手続きをいただき、事務局運営へのご支援心より御礼申し上げます。これまでの活動をご報告申し上げます。

●AGM総会参加

2016年7月3日にIC(インターナショナル・ローン・テニス・クラブ)のAGM(年次総会)がロンドン、ローハンプトンのナショナル・テニス・センターで開催されました。ディレクターの吉井みさ子が参加して参りました。IC各国代表より自国での年間活動内容などが報告されました。2015-16年度の事業計画、2015年度の会計報告、2016・17年度の予算について協議されました。IC 慈善事業、イベント企画、ウェブサイトの件なども参加国を交えて議論されました。



●ICJrワールドワイドファイナル決勝大会

9月2日～10日はICJrワールドワイドファイナル決勝大会(6か国総当たり戦)がモンテカルロ・カントリー・クラブにて行われました。詳細については添付にてご確認ください。日本チームは2位という快挙を成し遂げました！皆様のご支援に感謝申し上げます。

●今後の予定

2017年のジュニア・チャレンジ・アジア・オセアニア予選はインドで開催予定です。そこでの勝者が出場権利を得る2018年のジュニア・チャレンジ・ワールドワイド・ファイナルはIC日本創立40周年を記念して日本で開催されることになりました。大会成功にむけて、皆様のご協力をどうぞ宜しくお願い致します。アジア圏以外では、ICルクセンブルグ並びにICイスラエルが2018年の春頃来日を希望しているほか、日本からの参加を希望しているイベントも数多くあり、ICジャパンの事務局より近く募集条項をご連絡する予定です。

深く哀悼の意を表し
ご冥福をお祈りします。

石黒 修氏
2016年11月9日逝去
(享年80歳)
IC 英国 名誉会員

加茂 公成氏
2017年1月6日逝去
(享年84歳)

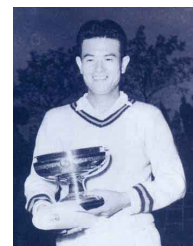
IC News



Osamu Ishiguro

It is with great sadness to report the passing away of Osamu Ishiguro, a hugely successful member of the IC of Japan. Osamu was a former national champion in singles, doubles and mixed doubles, as well as a successful Davis Cup player and Captain. He was the first player to turn professional after WWII and was notably the first Chairman of the Board for the Japanese Professional Tennis Association. As a hugely influential and important figure in Japanese tennis, messages of condolences

have been passed on from other ICs of the World, and the IC Council would like to extend these deepest sympathies to all his family and friends.





コロンバス・トロフィー @ ニューデリー 2016年11月2日～5日まで 参加報告

インドIC創立65周年記念コロンバス・トロフィー（男子55歳以上並びに65歳以上計四名）に坂井利朗会員、蝶間林利男会員、西尾茂之会員、井上雅雄会員が日本チームを結成し参戦して参りました。西尾夫人、井上夫人とIC担当・キャプテンの吉井みさ子を含めた7人チームで訪印しました。

旅はオンラインで申請するインドのビザ取得にはじまり、一人1時間ほどかけてやっと申請したE-visaと飲み水には気をつけてと言われて詰め込んだ大量のペットボトルの水と胃腸薬を手に、ニューデリーの空港から入国。白いエスニック調の服を着たドライバーに迎えられ、いざホテルへと向かったものの、そのスピードと車線変更の凄さに思わず叫声！やっとついたホテルはセキュリティが厳しく、入館するのに手荷物のX線検査がありました。

といってもホテル内では、大理石のロビーでサリーをまとった女性たちに迎えられ、その静けさ、香り、音楽、全くの別世界、朝起きてカーテンを開けると目の前に広がる森、そしてそこに漂う『朝もや』が、なんとも幻想的でした。

今回のコロンバス・トロフィーはインド・ニューデリーで開催され、ICインド創立65周年を記念し、由緒あるデリー・ジムカーナ・クラブのグラスコートで11月2日から5日まで行われました。パキスタンが開催直前に不参加となりましたが、それでもフランス、イギリス、ベルギー、アルゼンチン、インド2チームと日本の7チームが集まりました。フランス・チームには55歳以上世界No.1のジャク・エルベール、インド・チームには元でビスカップ選手のラメッシュ・クリシュナン、ナンダン・バル、ジェージト・シンと、錚々たる面々でした。グループ・ステージでは日本、フランス、インド1が同じ組になり、総当り戦が始まりました。55歳以上のシングルス2戦とダブルス、65歳以上のシングルス2戦とダブルス、3勝ずつの場合は各年齢グループから一人ずつのダブルスにより決定とのこと。フランス対インド1は5-1とフランスの圧勝。フランスは強いとみんなが諦めモードの中で始まった日本対フランスの対戦は大方の予想に反して大接戦、3-3になり、55/65ダブルスで勝利した日本が勝ちました。途中、試合を観に来る人が増え、思いも寄らず強い日本チームに注目が一気に集まりました。





コロンバス・トロフィー @ ニューデリー 2016年11月2日～5日まで 参加報告

絶好調の日本チームはその後、インド1にも5-1と勝ち、決勝ラウンド進出を決めました。もうひとつのグループではイギリスとベルギーが決勝ラウンドに進みました。準決勝では、エルベール率いるフランス・チームがイギリスを下し、ベルギーと日本の対戦は3-3ともつれもうボールが見えないと言うくらい薄暗くなるまでかかりました。翌朝の最終決定戦は日本の勝利で4-3。勝ちと思われましたが、グループステージとは異なったコロンバス・トロフィー従来のルール適用で、獲得ゲーム数でベルギーの勝ちとなりました。当キャプテンはルールの説明が不十分だったことに抗議しましたが、認められませんでした。(連日ヘトヘトになるまで頑張ってくださいました選手の皆様、本当にごめんなさい。)

決勝はフランスが簡単にベルギーを下し、貫禄の勝利でしたが、そのフランス・チームに勝った日本！その実力は誰もが認めるどころでした。最終順位は1位フランス、2位ベルギー、3位イギリス、4位日本、5位インド1、6位アルゼンチン、7位インド 2となりました。

毎日試合に行く前に、IC インドの計らいで、様々な観光地を回ることができました。帰りに必ず“マーケット”という場所に連れて行かれ、買い物をするように企画されていたのは困りましたが、何か買わなければ悪いと思う“日本人らしさ”で、特に女性陣は頑張りました。

IC India 会長の家でのパーティや宿泊先のTaj Mahal Hotel のガーデンテラスでの表彰式・ディナーパーティーでは一週間を通して友情の輪が広がったことを実感、楽しい時間を過ごし、今後もこのような場に IC 日本も積極的に参加し、テニスを通じた友情の輪を広げていきたいと思いました。

最後の日、車で3時間ほどのところにあるタジマハールへと足をのびました。第5代皇帝シャー・ジャハーンが、最愛の妻ムフタズ・マハールの死を悼んで建築した墓ということですが、真っ白な大理石でできた建造物とその壮大さ。門の外で渦巻く民衆の営み。1日中どこかでなり続くクラクションの音。車線の数より多い列で前へと進む車の波。突然あらわれ、車の横を堂々と走る牛。どこで見ても同じ種類の犬。全てがインドという国を作っているカラフルなモチーフのように思えました。そして、そう、あの幻想的と感激した『朝もや』はどうやらスモッグだったらしく、私たちがいる間、日夜を問わず、一回も晴れることはありませんでした。

我々インド遠征も終わりに近づき、コート上での接戦に続く接戦、試合の合間の友好、沢山の思い出話にも花が咲き、テニスという共通のスポーツを持つことの素晴らしさを実感しました。

“Hands across the net, friendship across the ocean”

というICのメッセージを各自心に、ニューデリーをあとにし、日本チーム7名は団体名を「INDIA 7」とし、これからも定期的に集まることを約束し、各自家路に着きました。

(文章: 吉井 みさ子)



International Lawn Tennis Club of JAPAN Newsletter

2017年 5月 No.6



2016 IC INDIA Columbus Trophy

